

お客様各位

“セガポップコーン自販機シリーズ”カップ収納マガジン部 部材取外しのお願い

2002年8月
株式会社セガ 国内販売部

貴社益々御発展の事とお慶び申し上げます。平素は格別の御引き立てを賜り、心より厚く御礼申し上げます。

さて、平成4年の発売以来、長年ご愛顧頂いております「セガポップコーン自販機シリーズ」の件でございますが、筐体内カップマガジン下部にあるステンレス部材がカップ補給時に受ける振動、経年変化などにより脱落し、電子レンジ内で発生するスパークによる機械の停止、最悪の場合は加熱されたステンレス部材によりお客様が火傷をするおそれがあります。

そこで、弊社ではさっそくステンレス部材取り外し・スパークセンサー点検等の一連の対策処置作業の注意点をより細やかに記した作業手順書を作成しましたので、ここに掲載させていただきます。

つきましては、掲載の「作業手順書」に従い、部材取り外し作業等をして頂けます様、よろしくお願い致します。

今回取り外す部材は、外しても稼働上問題がない物であることが確認されております。

また、機械製造番号が対象となっていない製品におきましても「作業手順書」内のスパークセンサー点検作業をして頂けます様、よろしくお願い致します。また、今回の作業の対象、非対象に拘わらず電子レンジ清掃につきましては、定期的に作業をして頂けます様、よろしくお願い致します。

本件に関する技術的なご質問・お問い合わせについては、(株)セガ・ロジスティクスサービス サービスセンターへご相談下さい。

なお、同型のステンレス部材を使用している他社製AM自販機も確認されておりますので、製造元の池本車体工業株式会社を通じて各種媒体を駆使し、アミューズメント業界に本件を広く呼び掛けてまいります。

引き続き、より一層の品質並びにお客様へのサービス向上に努めてまいりますので、今後ともご高配を賜ります様、よろしくお願い申し上げます。

－ 記 －	
対象機種	それいけ！アンパンマン ポップコーンこうじょう セガソニック ポップコーンショップ ミッキー&ドナルド ポップコーンファクトリー
対象機械製造番号	374056～1061205 (1049874～1049878、1058541～1058545を除く)
技術的なご相談窓口	(株)セガ・ロジスティクスサービス サービスセンター フリーダイヤル:0120-412-159

“セガ・ポップコーン自販機シリーズ”
－ 作業手順書 －

【1】カップガイドの外し方

カップガイド脱落による事故を防ぐため、次の手順でカップガイドを外してください。
なお、カップガイドを外しても機能上、問題はありません。



事故防止のために、作業は店舗内で機器の保守管理に携わる方が行ってください。
保守管理に関する知識や技術を持たない方は絶対に作業しないでください。
保守管理に携わる方が居ない場合は、製品の取扱説明書記載の事務所または製品購入先まで作業を依頼してください。



製品を運営していると、レンジ内部ほか周辺の部品は高熱になります。
不用意に触れると、火傷を負う恐れがあります。製品の電源を切り、部品が冷えたことを十分に確認してから作業を始めてください。
必ず指定の工具を使用して作業してください。指定以外の工具の使用は負傷事

故の原因となります。

ハンマーで作業者自らの手指を叩かないように、注意して作業してください。

カップガイドを取り外したとき発生するプラスチック屑は、必ず清掃して取り除いてください。清掃しないで運営するとカップ内に混入する恐れがあります。

【必要な工具等】

ラジオペンチまたはペンチ等

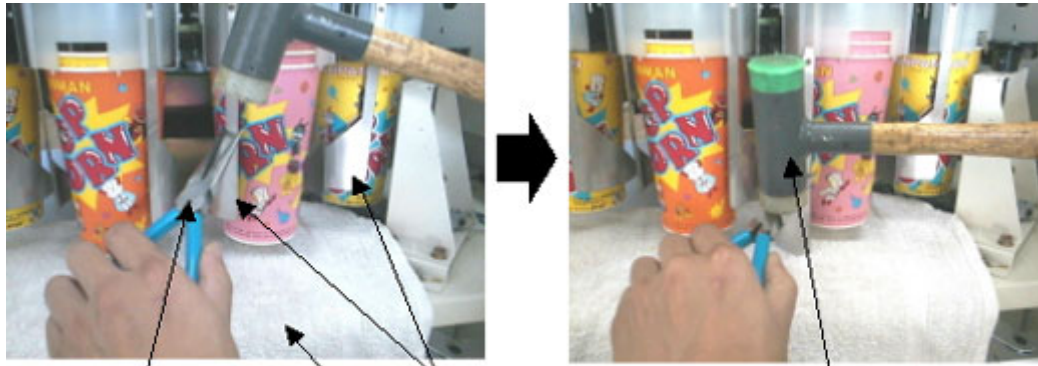
プラスチックハンマーまたは鉄製のハンマー

タオルまたはウエス等

マスターキー

【取り外し方】

1. マスターキーで、カップ収納部のキャビネットドアを開けます。
2. カップガイドの下にタオルなどを敷いて、機械面に傷がつかないように保護してください。
3. カップガイドの下側をラジオペンチ等をつかみ、ハンマーで軽くペンチを叩くと外れます。



ラジオペンチ等をつかむ

カップガイド

軽くペンチをハンマーでたたく

傷が付かないようタオル等を敷く

4. カップガイドを全周(24個)、同じ要領で外してください。
5. カップガイドを取り外すと、固定部分のプラスチック屑が落ちるので必ず清掃して取り除いてください。また、外したカップガイドは、燃えないゴミ等の決められた方法で廃棄処分してください。
6. マスターキーで、カップ収納部のキャビネットドアを閉めてカップガイド取り外し作業完了です。

【2】スパークセンサーの動作確認と感度調整方法

カップ内に金属部品が混入したり、電子レンジ内に異物(油、塩等)が付着したりしたときに発生するスパークによる焼損事故を未然に防止するため、下記手順で、再度スパークセンサーのチェックと感度調整をお願いいたします。



警告

事故防止のために、作業は店舗内で機器の保守管理に携わる方が行ってください。保守管理に関する知識や技術を持たない方は絶対に作業しないでください。保守管理に携わる方が居ない場合は、製品の取扱説明書記載の事務所または製品購入先まで作業を依頼してください。

本書が説明する作業は1名ではできません。作業を安全かつ確実にを行うため、2名の作業者が必要です。

配線を傷つけないように注意してください。配線を傷つけると、感電、短絡事故の原因となります。

コネクタの抜き差しは、互いのコネクタ方向やピン数を確認して、必ずコネクタ部を持ち、不用意に荷重を加えないように作業してください。不用意に作業すると、ワイヤーとコネクタ端子金具の接続部を傷つけ、短絡、火災事故の原因となります。また、接続不良の原因となります。

作業中に、スパークセンサーの不良を発見した場合はただちに製品の運営を中止して、製品の取扱説明書記載の事務所または製品購入先に修理依頼してください。不良を放置したまま運営すると、スパーク発生による焼損事故の原因となります。



注意

ドアの開閉時には手指を挟まないように注意してください。

成型部品の取り扱いには注意してください。無理な荷重や衝撃を加えると破損して、破片、ヒビや欠けによる負傷事故の原因となります。

【作業人数と必要な工具等】

●作業人数

2名

●工具

細いマイナスドライバー

懐中電灯(必要に応じて)

マスターキー

【動作確認と調整方法】

1. マスターキーで、キャビネット背面のバックドアを開け、ブレーカー（電源スイッチ）をOFFにします。

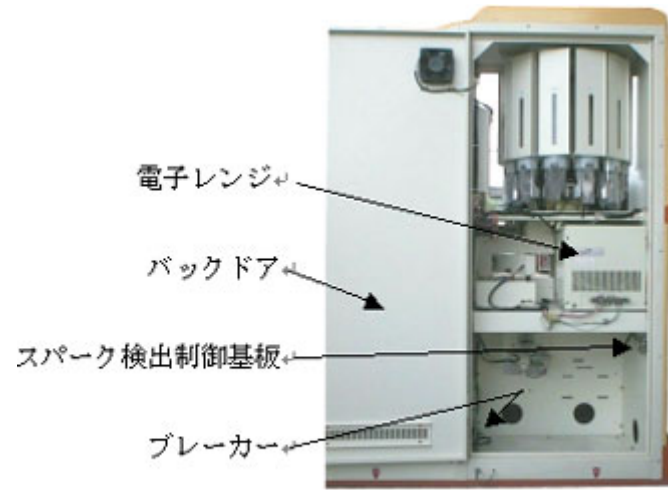


写真1 キャビネット背面

2. スパーク検出制御基板に接続している、2カ所のコネクタが確実に接続しているか確認してください。(写真2参照)
3. スパーク検出用ボリュームVR1を、細いマイナスドライバーで右(時計回転方向)へ最大まで回してください。

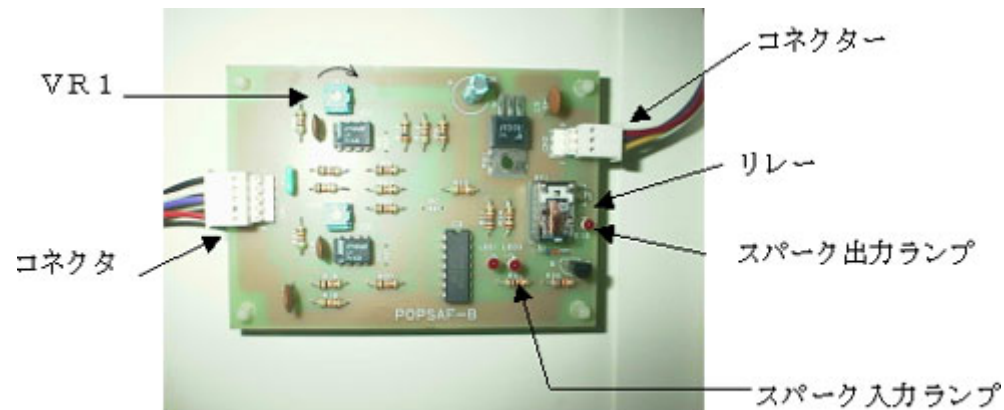


写真2 スパーク検出制御基板

4. 電子レンジ背面上部にある、スパークセンサーのテストコネクタ(1P)を現在、接続している黄色線と黄色線を外し、黄色線と白線側に差し替えます。



写真3 電子レンジ背面

5. ブレーカーをONにします。このとき、スパーク検出制御基板のリレーからジーと連続音がして、スパーク出力ランプが点灯している場合は、スパーク検出が正常に機能しているので手順9.へ進んでください。
点灯していない場合は次の手順6.へ進んでください。

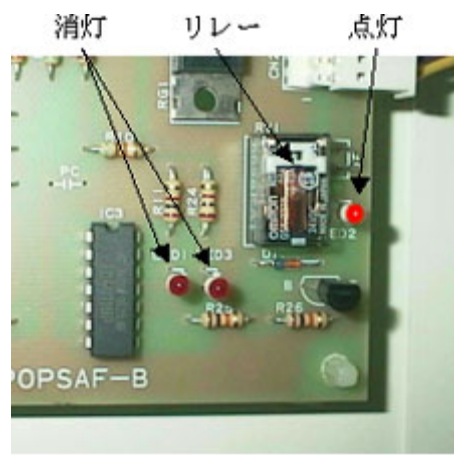


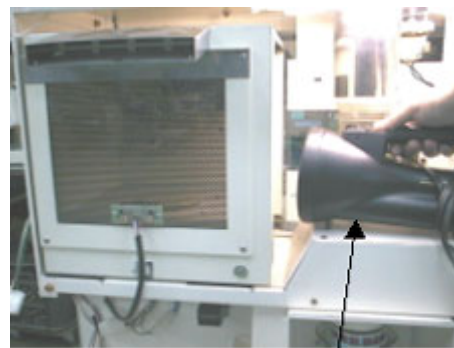
写真4 スパーク検出制御基板

※注1:リレーからジーと音がするのは、電子レンジの横にある蛍光灯の電源周波数による点滅を検出しているためです。ただし、蛍光灯が切れている場合や暗くなっていると、蛍光灯の点滅を検出できませんが異常ではありません。
 ※注2:スパーク出カランプが点灯している場合は、手順6. ~8. の作業を行わないでください。説明している各ランプの点灯の仕方と一致しません。

6. 1人がキャビネット背面のスパーク検出制御基板側へ、もう1人はキャビネット正面の電子レンジ正面側に移動します。
7. マスターキーで電子レンジ正面のキャビネットドアを開け、電子レンジ内側に手を入れてCDSに当たる光りを手で遮り、素早く手を除けて光りを当てることを繰り返します。あるいは手で光を遮るかわりに、懐中電灯等をレンジ開口側からレンジ内に向けた状態で点灯と消灯を繰り返します。但し、ペンシル型のような小さいものは、直接レンジ内部のCDSに向けて点灯してください。



写真5 電子レンジ正面



懐中電灯

写真6 電子レンジ正面

8. 手順7. で、CDSに光りが入った瞬間、スパーク検出制御基板にあるスパーク入力ランプとスパーク出カランプが同時に一瞬点灯することを確認してください。

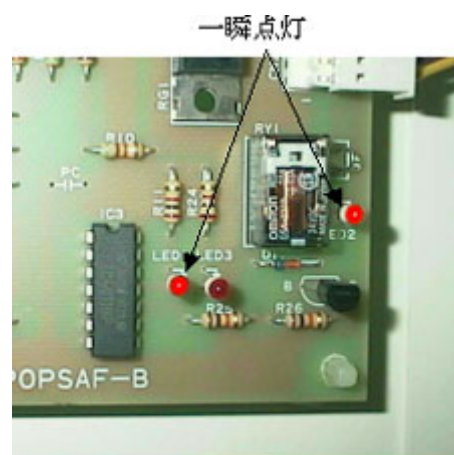


写真7 スパーク検出制御基板

9. ブレーカーをOFFにして電源を切り、手順4. で差し替えたテストコネクタを元通り黄色線と黄色線側に接続してください。
10. ブレーカーをONにし、マスターキーでキャビネットの各ドアを閉めて作業完了です。